

服飾小物のイメージに関与する色彩要因 (第1報)

— バッグ —

石原 久代・加藤 千穂

The Color Factor to be Involved in the Image of the Accessories I

— Bag —

Hisayo ISHIHARA and Chiho KATO

緒 言

バッグは、物を入れて持ち歩くためのものであるが、歴史的にみれば当初はアクセサリ的な要素が強く、刺繍を施したりネン地の小さな手提げ袋から始まったといわれている。また、中世において流行した大きなエンパイアスタイルのスカートのシルエットが急速に細身の小さなスカートへと変化したことから、それまでスカートに隠されていたポケットが付けられなくなり、小物を入れる用途として女性達が手で提げるタイプのバッグを持つようになった¹⁾。20世紀に入ると女性も社会へ進出するようになり、それに伴って装飾だけでなく機能的な役目を果たすバッグが必要となり、種類は急激に増加した。殊にショルダーバッグは、両手が使えるという利点において第二次世界大戦が生み出したものといわれている。

現在、女性にとってバッグは外出時において欠かせないアイテムとなり、色彩、デザイン、大きさなど多種多様なものが出回っている。それらのバッグは、スタイリングにおける服飾小物の中でも、大きな存在感を示し、着装イメージにも大きく関与するアイテムであるが、バッグの意識を扱った研究はいくつかある^{2) 3)}もののイメージを扱った研究は少ない。

そこで、本研究ではバッグを取り上げ、アンケートにより所持の現状を把握するとともに、若い女性におけるバッグのCG画像からの視感評価をもとに、イメージに関与する色彩およびデザインの要因について解明することにした。

方 法

1. バッグに関するアンケート調査

被験者は、バッグに興味ある世代として、女子大学生97名(19~20歳)とした。

アンケートは、現在のバッグの所持数とその種類、所持バッグの平均的価格および最高価格、購入店舗、購入時の決定要因、嗜好色、好みのブランド、バッグの着用要因などである。アンケートは2006年11月に集合調査法により行った。

2. 官能検査によるバッグのイメージの検討

1) 実験試料の作成

取り上げたバッグは、図1に示したように、その形態として代表的なボストンバッグ (A), ケリーバッグ (B), デイパック (C), スポーツバッグ (D), ショルダーバッグ (E), トートバッグ (F) の6種類とした。これらのバッグの画像をコンピュータに取り込み、色彩変換ソフト4D-box (株)トヨシマビジネスシステム) を用いて、バッグの色彩として多く用いられている赤 (4R3.5/11.5), 緑 (3G5.5/11.0), 青 (6PB3.5/11.5), 茶色 (8YR5.5/6.5), 黒 (N1) の5色に色彩変換し、計30種の画像を作成した。なお、白については、4D-boxでの色彩変換においてはリアル感が損なわれ、実験結果にバイアスがかかることが懸念されるため取り上げなかった。

実験ではこれらの画像をランダムに並べ、A3の白紙にプリントアウトしたものを提示試料とした。



図1 色彩変換したバッグのデザイン

2) 実験方法

上記の30試料について、「好きな-嫌いな」「重い-軽い」「明るい-暗い」「暖かい-冷たい」「個性的な-平凡な」「地味な-派手な」「ハードな-ソフトな」「カジュアルな-フォーマルな」「ヤングな-アダルトな」「高級な-安っぽい」「機能的な-デザイン的な」といったバッグの視覚イメージに関する11形容詞対についてSD法⁴⁾による5段階評定の官能検査を行った。被験者は、先のアンケートの被験者と異なる本学学生67名であり、実験実施時期は2007年5月に行った。

得られた5段階の結果に5~1点を与えて数値化したデータをもとに因子分析を行い、因子構造を明らかにし、因子得点により因子に關与する要因の検討を行うとともに、各イメージに關与する要因については数量化I類を用いて検討した。

結果および考察

1. バッグに関するアンケート調査

現在所持しているバッグの被験者全体の平均所持数は7.92個で、その内訳としてはハンドバッグ (トートバッグも含む) が最も多く2.94個、ショルダーバッグが2.26個、ボストンバ

グが1.5個，ディパックが0.63個，スポーツバッグが0.59個であった。今回の被験者が大学2年生ということもあり，所持数も比較的多く，バッグの種類も多種にわたって所持している傾向がうかがえた。しかし，仮に被験者が1年生であったら所持数は本調査より少ないことが予想され，大学生全体の傾向として捉えるには無理があることは念頭に入れておく必要がある。

これら現在所持しているバッグの平均的金額については，図2に示したが，3千円～5千円が34%と最も多く，次いで5千円～1万円が30%であった。しかし，3千円未満が存在する中で，5万円以上も11%の出現があり，かなりのバラツキが認められた。なお97名の平均金額は8,400円であった。

一方，所持しているバッグの最高額については金額で回答させたが，図3に区別して示した。1万円～3万円が最も多く34%，次いで1万円未満が24%と比較的低価格をあげている被験者が多く出現しているが，次いで多いのは10万円～50万円の18%で，平均金額以上に差がみられている。なお，最も金額の高い被験者1名が100万円以上の突出した金額であったため除外して，96名の被験者の平均を算出したところ約39,000円であった。これらの結果をみると被験者個人についても所持バッグの値段にかなり差があるといえる。また，所持しているバッグの最高額が5万円以上と回答している被験者32%について，好きなブランドの回答をみると，その中の65%がルイヴィトンとあげており，次いでエルメスが25%と両方で90%を占めている。バッグの最高額が5万円未満の被験者で好きなブランドにルイヴィトンと挙げているのは1名のみで，エルメスについては全く出現しなかった。それに対して，所持しているバッグの最高額が1万円未満の被験者については，約半数が好きなブランドは，「ない」または「わからない」と回答しており，所持しているバッグの最高額が高い人ほどブランドへのこだわりを持っているといえる。

なお，現在所持しているバッグの平均的金額と最高額について，相関係数を算出したところ0.437と有意な相関は得られず，ブランドとの関係においても所持バッグの平均金額1万円以上の被験者について，ルイヴィトンやエルメスを挙げているのは半数程度にとどまっており，ブランドとの関係は，平均的金額に寄るところではなく，高額なバッグを持っているか否かと密接に関係していることが判明した。

所持バッグの色彩については図4に示したが，黒が

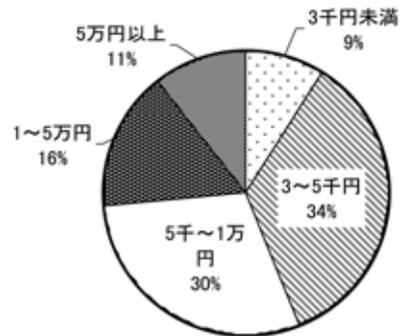


図2 所持バッグの平均金額

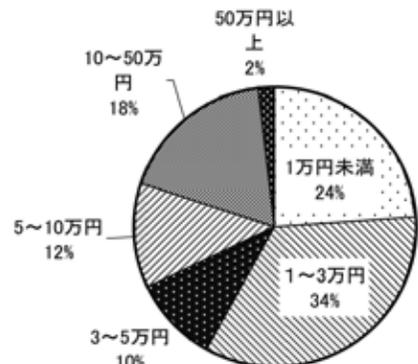


図3 所持バッグの最高金額

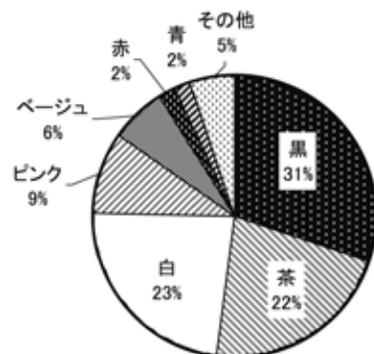


図4 所持バッグの色彩

最も多く31%、次いで白が23%、茶22%と続いており、低彩度色の無難な色彩に集中しているといえる。

次に、バッグの購入時の決定要因について複数回答可としてのアンケートの結果を図5に示したが、デザインが最も多く95%、次いで色が79%、使い易さが74%と続いている。なお、流行については14%しかあげられておらず、洋服などに比べ流行の影響が少ないアイテムであると考えられる。

また、購入店舗については、ショッピングモールとデパートがともに58%と最も多く、次いで専門店があげられた。それに対し、スーパーは全く出現せず、さらに通販も2%と少なく、こだわりを持って購入する様子が見えてくる。

バッグの着用を決定する要因については図7に示したように「その日の気分」が49%と最も多く、次いで「その日の服装」が47%と続いている。「その日の出かける目的」や「季節」などをあげている人は少なく、被服着装の3条件といわれるT(時間)P(場所)O(場合)をそれほど気にしないで選ばれていることが判明した。

2. 官能検査によるイメージの検討

1) 官能検査結果

11形容詞対における官能検査結果をもとに、全被験者の平均官能量を算出した結果を図8に示した。

図中「好きな-嫌いな」において、最も「好きな」と評価されたのは、Aのボストンバッグの赤および茶の試料であった。逆に「嫌いな」と評価されたのはディバックであり、全ての色彩において低く評価されている。また、色彩については、緑がほとんどのデザインで「嫌いな」と評価されている。

「重い-軽い」については、全てのデザインにおいて黒が最も「重い」と評価されている。逆に、「軽い」については、ショルダーバッグでは赤が最も「軽い」と評価されているが、そ

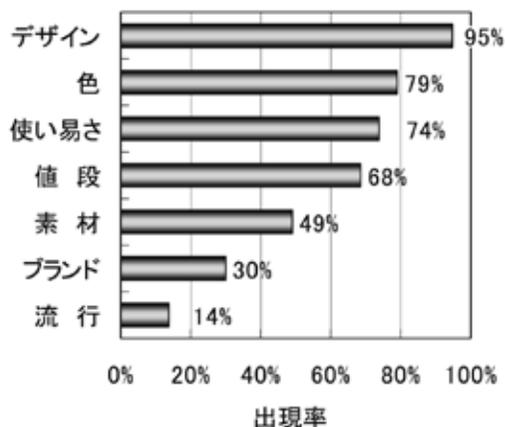


図5 バッグ購入時の決定要因

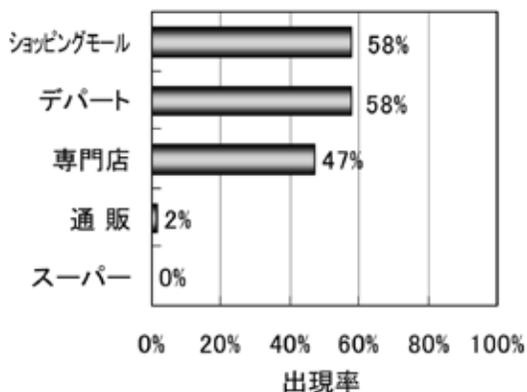


図6 バッグの購入店舗

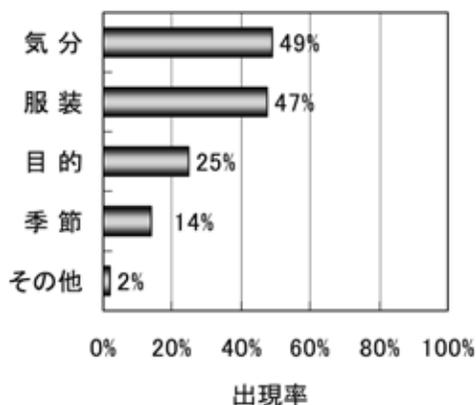


図7 バッグ着用の決定要因

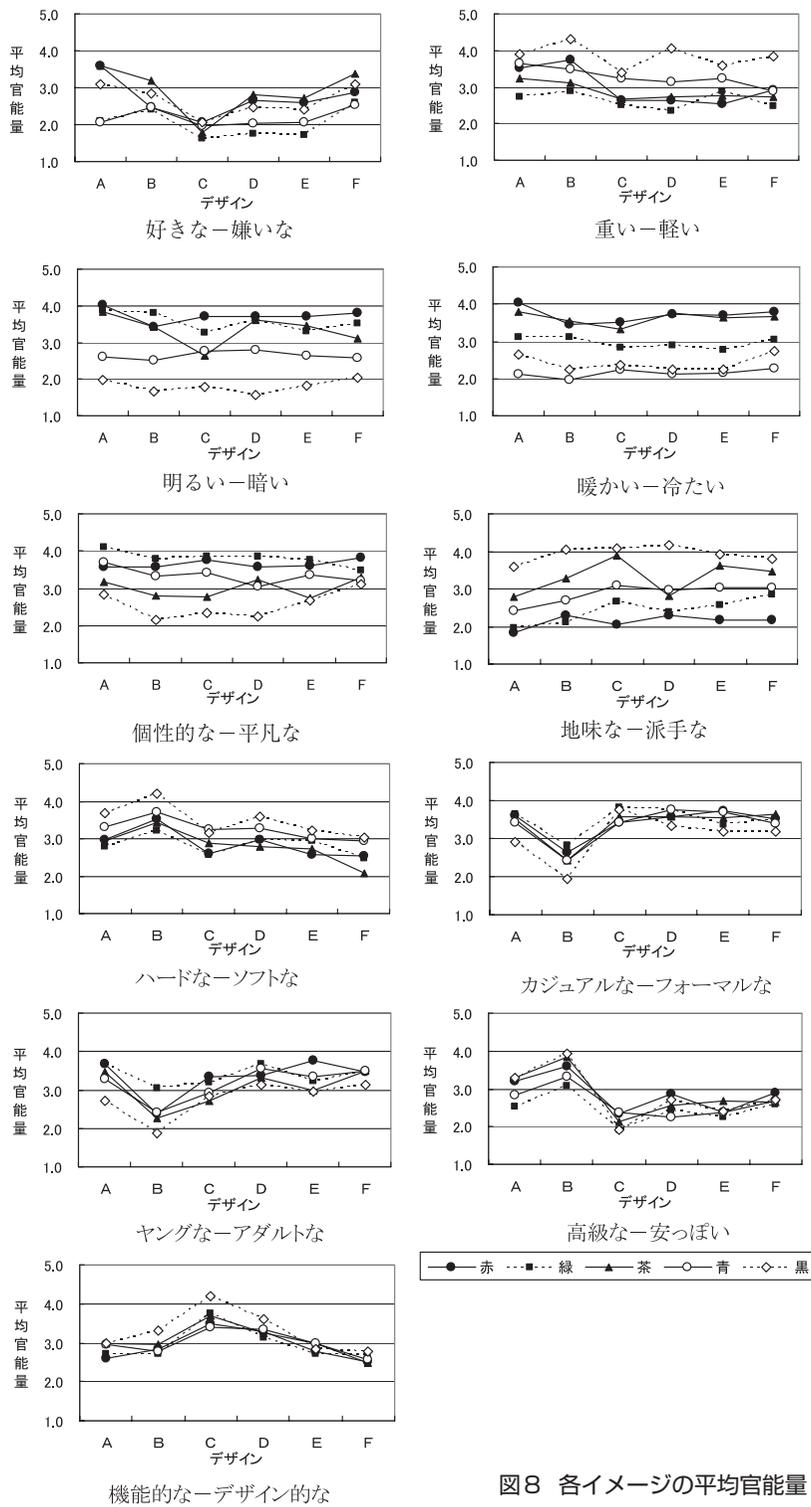


図8 各イメージの平均官能量

その他のデザインにおいては緑が「軽い」と評価されている。なお、赤についてはデザインによって評価にかなりばらつきが認められた。

「明るい-暗い」については、全体に色彩の影響が大きいと考えられ、最も「明るい」と評価されたのは赤のポストンバッグで、次いで赤のトートバッグであった。逆に、最も「暗い」と評価されたのは黒のスポーツバッグ、黒のケリーバッグと続き、全てのデザインにおいて黒が「暗い」と評価されている。試料画像自体のマンセル明度によれば、黒の次に低明度の色彩は赤および青であるが、赤については官能検査では「明るい」と評価されており、物理量としての明度との間に大きな差がみられた。

「暖かい-冷たい」については、色彩の影響が大きいと考えられ、全てのデザインにおいて赤が最も「暖かい」と評価され、次いで茶色、緑、黒、青の順で、青を最も「冷たい」と評価しており、色相の影響が大きいといえる。

「個性的な-平凡な」については、黒においてデザインによる差がやや大きく出ているが、色彩による差の方が大きく、緑を「個性的な」、黒を「平凡な」と評価している。

「地味な-派手な」についても、色彩による差が大きく、黒を「地味な」、赤を「派手な」と評価している。また、茶色についてはデザインによるイメージの差が大きく、ポストンバッグ、スポーツバッグで「派手な」、ディパック、ショルダーバッグ、トートバッグでは「地味な」と評価されている。

「ハードな-ソフトな」については、色彩の影響が少なく、どの色彩もBのケリーバッグを最も「ハードな」と評価し、次いでAのポストンバッグ、最も「ソフトな」と評価したのはFのトートバッグであった。

「カジュアルな-フォーマルな」について色彩の影響はほとんど認められず、Bのケリーバッグがどの色彩も3.0以下の平均官能量を示しており、「フォーマルな」と評価されているが、その他では黒のポストンバッグが若干「フォーマルな」に寄っているのみで他のバッグはすべて「カジュアルな」と評価されている。

「ヤングな-アダルトな」については、赤のショルダーバッグが最も「ヤングな」と評価され、黒のケリーバッグが最も「アダルトな」と評価されている。全体的に赤が「ヤングな」、黒が「アダルトな」の傾向がみられるが、ケリーバッグについては緑のみが「ヤングな」と評価されているのみで、残りの4色は何れも「アダルトな」と評価されている。

「高級な-安っぽい」については、デザインの影響が大きく、ケリーバッグが「高級な」と評価されている。中でも黒の評価が最も高い。しかし、全てのデザインで黒が最も「高級な」と評価されているわけではなく、ディパックでは青が、スポーツバッグ、トートバッグでは赤が、ショルダーバッグでは茶色の評価が最も高く、デザインによって高級な色が異なるといえる。しかし、普段の用途で使われるディパックは、やはり「安っぽい」と評価されている。

「機能的な-デザイン的な」についてもデザインの影響が強く現れており、Cのディパックを最も「機能的な」と評価し、次いでスポーツバッグの順であった。色彩においては、若干、黒が他の色彩に比べて「機能的な」と評価され、実際には色彩そのものには機能性がほとんどないにも関わらず、黒に「機能的な」というイメージがあることは興味深い結果であるといえる。

2) 因子分析結果

各形容詞対を変数、提示試料をケースとして主因子解法により因子分析を行い、バリマックス回転後の因子負荷量を表1に示した。固有値1.0以上で3因子が抽出され、その累積寄与率

は84.0%であった。
各因子の分類にあたっては、3因子の中で最も高い因子負荷量を示した因子の分類に入れた。

まず、第1因子では「カジュアルな－フォーマルな」「ハードな－ソフトな」「高級な－安っぽい」「ヤングな－アダルトな」「重い－軽い」の5形容詞対が高い負荷量を示

し、これらを品格性の因子とした。第2因子には「地味な－派手な」「個性的な－平凡な」「明るい－暗い」「機能的な－デザイン的な」の4形容詞対が高い負荷量を示し、活動性の因子とした。第3因子には「好きな－嫌いな」「暖かい－冷たい」の2形容詞対が高い負荷量を示し、嗜好性の因子と解釈し、これら3因子でイメージが構築されていると考えられる。

次に、これら3因子に関与する要因を検討するために、各試料の因子得点を算出し、図9にプロット図を示した。

表1 因子分析結果

形容詞対	FAC1	FAC2	FAC3	共通性
カジュアルな－フォーマルな	0.936	0.037	-0.153	0.900
ハードな－ソフトな	-0.885	-0.255	-0.220	0.897
高級な－安っぽい	-0.791	0.124	0.561	0.955
ヤングな－アダルトな	0.774	0.361	0.064	0.733
重い－軽い	-0.741	-0.447	0.024	0.750
地味な－派手な	-0.148	-0.949	-0.053	0.925
個性的な－平凡な	0.295	0.920	-0.083	0.941
明るい－暗い	0.389	0.771	0.372	0.885
機能的な－デザイン的な	0.148	-0.517	-0.508	0.547
好きな－嫌いな	-0.188	-0.140	0.933	0.926
暖かい－冷たい	0.383	0.318	0.728	0.778
寄与率(%)	35.4	28.6	20.0	
累積寄与率(%)	35.4	64.0	84.0	

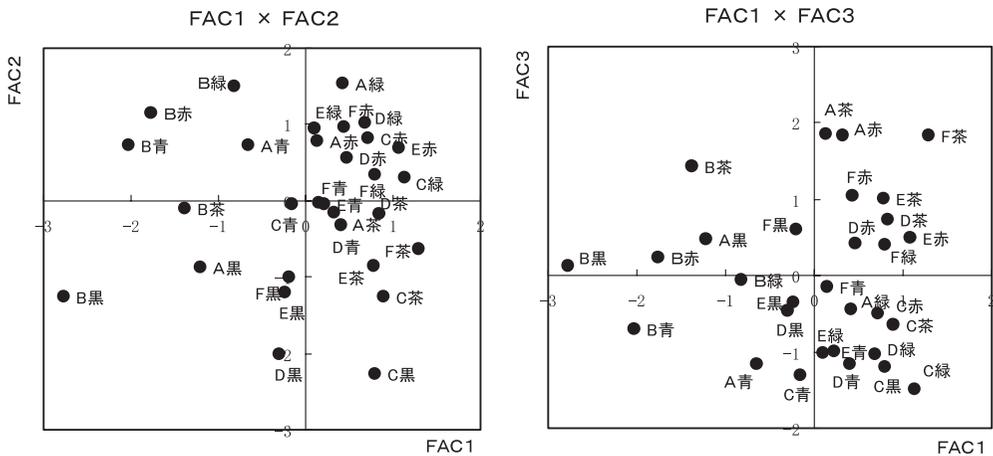


図9 因子得点プロット図

まず、第1因子得点と第2得点の図より、第1因子の品格性の因子においてプラスで高い得点を示した試料は、Fのトートバッグの茶が布置しているものの、CのディパックやDのスポーツバッグの各色が多く布置し、逆に、マイナスではBのケリーバッグの黒が最も高い得点を示し、その他もケリーバッグの全色が高い得点で布置している。これらの分布の傾向から第1因子軸にはデザインの要素が影響していると考えられ、形状的にきちんと形作られている

バッグが品格が高い傾向にあると考えられる。また、第2因子の活動性の因子については、プラスには色彩が緑と赤のバッグが布置し、マイナスには黒のバッグが布置していることから、色彩が影響し、特に高彩度の色彩が活動性が高く、低彩度の色彩のバッグが活動性が低いといえる。さらに第3因子の嗜好性の因子では、プラスには赤や茶色のバッグが布置し、マイナスには青や緑が布置していることから、色彩の属性の中で色相が大きく影響していると考えられる。従って暖色系のバッグの方が嗜好性が高いことが読み取れる。

3) 数量化I類によるイメージ要因の検討

バッグのイメージに関与する要因を、イメージごとに検討するために、バッグのAからFのデザインおよび5種類の色彩をアイテムとして数量化I類により分析した結果を表2に示した。

「好きな-嫌いな」については、その偏相関係数をみると、デザインが0.842、色彩が0.824と両アイテムがほぼ同程度に影響しているといえる。さらに、デザインについてはそのカテゴリ数量からトートバッグやボストンバッグが「好きな」に、デイパックが「嫌いな」に、色彩では茶色が「好きな」に、緑が「嫌いな」に大きく関与していることがわかる。

「重い-軽い」「明るい-暗い」「暖かい-冷たい」「個性的な-平凡な」「地味な-派手な」の5形容詞対については、それらの偏相関係数をみると、デザインの係数に比べ、色彩の係数の方が高く、何れも0.90以上の値を示している。それらのカテゴリ数量をイメージごとに細かくみると「重い-軽い」については、黒が「重い」、緑が「軽い」に関与している。

次に、「明るい-暗い」では、赤が「明るい」に、黒が「暗い」に関与している。「暖かい-冷たい」では赤が「暖かい」、青が「冷たい」と評価され、暖色・寒色の影響が明確に出ているといえる。「個性的な-平凡な」については、緑が「個性的な」、黒が「平凡な」に大きく関与しているという結果であった。また、「地味な-派手な」では、黒が「地味な」に、赤が「派手な」に関与しており、イメージによって関与する色彩がかなり異なっている。

次に、「ハードな-ソフトな」については、デザイン、色彩ともに0.90以上の高い偏相関係数を示しており、デザインではケリーバッグが「ハードな」、トートバッグが「ソフトな」に関与し、色彩では黒が「ハードな」、緑や茶色が「ソフトな」に関与している。

「カジュアルな-フォーマルな」「ヤングな-アダルトな」「高級な-安っぽい」「機能的な-デザイン的な」はそれぞれの偏相関係数から、色彩よりデザインが大きく影響しているといえる。「カジュアルな-フォーマルな」については、デイパックとスポーツバッグが「カジュアルな」に、ケリーバッグが「フォーマルな」に影響を及ぼしている。「ヤングな-アダルトな」ではトートバッグが「ヤングな」に、ケリーバッグが「アダルトな」に影響している。「高級な-安っぽい」ではケリーバッグが「高級な」に、デイパックが「安っぽい」に影響している。「機能的な-デザイン的な」はデイパックが「機能的な」に、トートバッグが「デザイン的な」に影響している。これは本研究で試料として提示したトートバッグが比較的装飾的であったことから、ボストンバッグやケリーバッグよりデザイン的であると評価されたものと考えられる。

なお、決定係数ともいえる重相関係数の2乗値はすべての形容詞対において0.80以上の高い値を示しており、分析結果は有効なものといえる。

表2 数量化I類の結果

形容詞	アイテム	デザイン						色彩					定数項
	カテゴリ	A	B	C	D	E	F	赤	緑	茶	青	黒	
好き 嫌いな	カテゴリ数量	0.386	0.172	-0.600	-0.158	-0.196	0.396	0.201	-0.463	0.412	-0.313	0.163	2.495
	レンジ/単相関	0.996 / 0.663						0.874 / 0.617					
	偏相関	0.842						0.824					
	重相関係数	0.906											
	重相関の2乗	0.820											
重い 軽い	カテゴリ数量	0.274	0.383	-0.231	-0.140	-0.129	-0.157	-0.123	-0.486	-0.249	0.143	0.716	3.129
	レンジ/単相関	0.614 / 0.465						1.202 / 0.808					
	偏相関	0.789						0.913					
	重相関係数	0.932											
	重相関の2乗	0.869											
明るい 暗い	カテゴリ数量	0.246	-0.059	-0.192	0.046	-0.031	-0.010	0.711	0.541	0.330	-0.371	-1.211	3.020
	レンジ/単相関	0.439 / 0.177						1.921 / 0.949					
	偏相関	0.563						0.965					
	重相関係数	0.966											
	重相関の2乗	0.933											
暖かい 冷たい	カテゴリ数量	0.168	-0.105	-0.109	-0.021	-0.067	0.133	0.739	-0.006	0.657	-0.831	-0.559	2.968
	レンジ/単相関	0.277 / 0.171						1.570 / 0.969					
	偏相関	0.690						0.983					
	重相関係数	0.984											
	重相関の2乗	0.968											
個性的 平凡な	カテゴリ数量	0.202	-0.139	-0.047	-0.086	-0.044	0.114	0.381	0.536	-0.271	0.065	-0.710	3.268
	レンジ/単相関	0.340 / 0.235						1.246 / 0.893					
	偏相関	0.522						0.919					
	重相関係数	0.923											
	重相関の2乗	0.852											
地味 派手な	カテゴリ数量	-0.418	-0.053	0.221	-0.007	0.126	0.130	-0.799	-0.509	0.374	-0.065	0.999	2.933
	レンジ/単相関	0.639 / 0.298						1.798 / 0.918					
	偏相関	0.753						0.962					
	重相関係数	0.965											
	重相関の2乗	0.932											
ハード ソフトな	カテゴリ数量	0.091	0.579	-0.154	0.074	-0.154	-0.435	-0.180	-0.221	-0.233	0.200	0.434	3.046
	レンジ/単相関	1.014 / 0.724						0.667 / 0.625					
	偏相関	0.928						0.907					
	重相関係数	0.957											
	重相関の2乗	0.916											
カジュアル フォーマルな	カテゴリ数量	0.082	-0.883	0.268	0.257	0.163	0.113	0.073	0.149	0.041	0.020	-0.284	3.339
	レンジ/単相関	1.151 / 0.883						0.433 / 0.327					
	偏相関	0.934						0.695					
	重相関係数	0.941											
	重相関の2乗	0.886											
ヤング アダルトな	カテゴリ数量	0.222	-0.743	-0.136	0.267	0.113	0.278	0.199	0.240	-0.099	0.032	-0.371	3.143
	レンジ/単相関	1.021 / 0.790						0.611 / 0.486					
	偏相関	0.904						0.792					
	重相関係数	0.927											
	重相関の2乗	0.860											
高級 安っぽい	カテゴリ数量	0.295	0.818	-0.600	-0.168	-0.312	-0.032	0.150	-0.268	0.123	-0.096	0.091	2.733
	レンジ/単相関	1.418 / 0.895						0.418 / 0.314					
	偏相関	0.943						0.704					
	重相関係数	0.948											
	重相関の2乗	0.900											
機能的 的な	カテゴリ数量	-0.188	-0.125	0.658	0.275	-0.184	-0.437	-0.123	-0.091	0.018	-0.044	0.240	3.044
	レンジ/単相関	1.095 / 0.895						0.363 / 0.319					
	偏相関	0.944						0.715					
	重相関係数	0.950											
	重相関の2乗	0.903											

要 約

ファッションコーディネートにおける服飾小物の中で、着装イメージに大きく関与するバッグを取り上げ、アンケートにより所持の現状を把握するとともに、視感評価をもとにイメージに関与する要因について検討した結果、以下のような知見を得た。

現在のバッグの平均所持数は7.92個で、その色彩は黒、白、茶の無難な色彩に集中していた。また所持バッグの平均的金額は8,400円、内最も高額なバッグは約39,000円であったが、両者に相関は認められなかった。しかし、バッグの最高額が高い人ほどブランドへの拘りを持っていることが判明した。

官能検査結果をもとに因子分析を行ったところ固有値1.0以上で品格性、活動性、嗜好性の3因子が抽出された。また、数量化I類によりイメージに関与する要因を検討した結果、「重い-軽い」「明るい-暗い」「暖かい-冷たい」「個性的な-平凡な」「地味な-派手な」には色彩要因、「カジュアルな-フォーマルな」「ヤングな-アダルトな」「高級な-安っぽい」にはデザイン要因が大きく影響することが明らかになった。なお「好きな-嫌いな」「ハードな-ソフトな」は両要因が同程度に関与することが明らかになった。

文 献

- 1) 田中千代：新田中千代服飾事典，787～793，同文書院（1979）
- 2) 辻 幸恵：マイバッグの流行，繊維製品消費科学会誌，48，5，322～326（2007）
- 3) 大本 京子，川西 哲夫：本学学生のハンドバッグに関する意識調査，共立女子短期大学生活科学科紀要，43，53～61（2000）
- 4) 岩下豊彦：SD法によるイメージの測定，63～104，川島書店（1987）